2013年06月17日 中日新聞 朝刊 25頁

黒い水の壁 家のむ

命にかかわる水害は津波だけではない。百歳を超えた双子姉妹として親しまれた「きんさん ぎんさん」の蟹江ぎんさんの家族は、一九五九年九月の伊勢湾台風による高潮の被害者だった。ぎんさんの三女の津田千多代さん(九七)、四女の佐野百合子さん(九二)、五女の蟹江美根代さん(九〇)は今も名古屋市南区の海抜ゼロメートル地帯に暮らす。豪雨災害に詳しいNPO法人「環境防災総合政策研究機構」(東京都)の松尾一郎副所長が、三人の被災体験と防災への思いを聞いた。(まとめ・相坂穣)

伊勢湾台風を振り返る(左から)三女津田千多代さん、四女佐野百合子さん、五女蟹江美根代さん。右は松尾一郎副所長＝名古屋市南区で

伊勢湾台風　1959(昭和34)年9月26日午後6時すぎ、潮岬付近に上陸して紀伊半島から本州を縦断した。上陸時の中心気圧は929ヘクトパスカルと猛烈な勢力で、名古屋港の高潮は観測史上最高の389センチを記録した。名古屋市南部の低海抜地域では最大6メートル浸水。東海地方を中心に死者・行方不明者は5098人、負傷者3万8921人。住宅は4万棟余が全壊、浸水被害は36万棟余に上った。

伊勢湾台風 ぎんさん一家の記憶

伊勢湾台風で浸水し、いかだとボートで家財を搬出する被災者＝名古屋市南区南陽通町3丁目で(日付不詳)

■悲しい記憶

松尾副所長　東日本大震災の津波で大きな被害が出ました。この地域も(伊勢湾台風殉難者慰霊像、地図①)あるでしょう。何度も水害に遭ってきましたね。

美根代さん　東北の津波は人ごとと思えんかった。伊勢湾台風もあんなかったもんで。高潮平屋に住んどったんだわ。あの日、「ひどうなっていうけど、潮なんてかわいいもんじゃないね。真っ黒に濁った水の壁がどえりゃあ勢いで天白川の堤防を越えて、あっという間に家(地図①)のひさしまでのみ込まれてしまったんだわ。消防署の出張所脇に浸水標識(地図②、右下の写真)あるでしょう。四、五くらいの所に赤い線、そこまで水が来たんだわ。

千多代さん　東北で家族を亡くして、悲しんどる人の気持ちがよう分かる。実は私らも伊勢湾台風で、めいっ子とその家族を亡くしとるもんで。震災の津波で大きな被害が出ました。この地域も(伊勢湾台風殉難者慰霊像、地図②)あるでしょう。何百人って人が犠牲になったんだろう。

■生死の境

美根代さん　私らも一百合子さん　めいの家　美間違えれば、こうして五人で、平屋に暮らしとる。あの日、「ひどうなったら、すぐに逃げて」ってね。真っ黒に濁った水の壁がどえりゃあ勢いで天白川の堤防を越えて、あっという間に家(地図①)のひさしまでのみ込まれてしまったんだわ。消防署の出張所脇に浸水標識(地図②、右下の写真)あるでしょう。四、五くらいの所に赤い線、そこまで水が来たんだわ。

千多代さん　東北で家族を亡くして、悲しんどる人の気持ちがよう分かる。実は私らも伊勢湾台風で、めいっ子とその家族を亡くしとるもんで。震災の津波で大きな被害が出ました。この地域も(伊勢湾台風殉難者慰霊像、地図②)あるでしょう。何百人って人が犠牲になったんだろう。何度も水害に遭ってきました。

美根代さん　東北の津波は人ごとと思えんかった。伊勢湾台風もあんなかったもんで。高潮平屋に住んどったんだわ。あの日、「ひどうなっていうけど、潮なんてかわいいもんじゃないね。真っ黒に濁った水の壁がどえりゃあ勢いで天白川の堤防を越えて、あっという間に家(地図①)のひさしまでのみ込まれてしまったんだわ。消防署の出張所脇に浸水標識(地図②、右下の写真)あるでしょう。四、五くらいの所に赤い線、そこまで水が来たんだわ。

千多代さん　東北で家族を亡くして、悲しんどる人の気持ちがよう分かる。実は私らも伊勢湾台風で、めいっ子とその家族を亡くしとるもんで。震災の津波で大きな被害が出ました。この地域も(伊勢湾台風殉難者慰霊像、地図②)あるでしょう。何百人って人が犠牲になったんだろう。何度も水害に遭ってきました。

美根代さん　当時、わが家は母親(ぎんさん)と父親、私と夫、息子と娘の五人で、平屋に暮らしとった。高潮が堤防を越えたって聞いて、屋根裏に上ったんだ。どうしてかね。あの日、普段は別の場所にあるはしごが梁に掛かっとったもんで苦労しんかった。それに屋根裏にも、懐中電灯や布団が置かれとったんだ。水面が高く見えるようにつくり休めたんだわ。

松尾副所長　やっぱがいて、空洞になっとり、偶然じゃない。はしごも布団も懐中電灯も、美根代さんのお姉さんが、きちんと災害に備えていたのでしょう。

千多代さん　きっと、あんた(美根代さん)の目那がちゃんとやってくれとったんだわ。用心深い人だった。

■復興と課題

美根代さん　被災後、もっ低い土地はだめだって、うちも一時、隣の緑区に「高台移転」したんだ。結局は近所の仲間が場所があるといいですね。東日本大震災以降、市や県が公営住宅や民間ビルを津波避難ビルに指定するようになっている。この地域も増やして欲しいですね。

千多代さん　河村たかしさん(名古屋市長)に再び、津波や高潮が来た時の行事なんかで会うこと多いんだわ。いっつも、名古屋の沿岸部は工業用の地下水のくみ上げいしとる。

美根代さん　正直言う、ぎんさんは嫌だで。防災の役立つなら、これからも昔の災害をどんどん語ろう。伊勢湾台風の経験を検証する文化のたまものだ。検証結果はリポートとして公表されている。日本もこうした文化を習うべきだろう。震災対応の家屋は全壊状態となった。求められている。

松尾副所長　もし再び、津波や高潮が来た時、市民に避難すべきか、「地下鉄の停止」など発信、市民が非常事態を認識することに役立つ。「危機感の共有」がう。「自治体や報道も含めまくいった例だろう。これらは米国が過去に経験を検証する文化のたまものだ。検証結果はリポートとして公表されている。日本もこうした文化を習うべきだろう。震災対応の家屋は全壊状態となった。求められている。

千多代さん　確かに土地が低くなっとると思っとったけどさだわ。

松尾副所長　東日本大震災の津波で大きな被害が出ました。この地域も(伊勢湾台風殉難者慰霊像、地図②)あるでしょう。何度も水害に遭ってきました。

美根代さん　東北の津波は人ごとと思えんかった。伊勢湾台風もあんなかったもんで。高潮平屋に住んどったんだわ。あの日、「ひどうなっていうけど、潮なんてかわいいもんじゃないね。真っ黒に濁った水の壁がどえりゃあ勢いで天白川の堤防を越えて、あっという間に家(地図①)のひさしまでのみ込まれてしまったんだわ。消防署の出張所脇に浸水標識(地図②、右下の写真)あるでしょう。四、五くらいの所に赤い線、そこまで水が来たんだわ。

千多代さん　東北で家族を亡くして、悲しんどる人の気持ちがよう分かる。実は私らも伊勢湾台風で、めいっ子とその家族を亡くしとるもんで。震災の津波で大きな被害が出ました。この地域も(伊勢湾台風殉難者慰霊像、地図②)あるでしょう。何百人って人が犠牲になったんだろう。何度も水害に遭ってきました。

美根代さん　当時、わが家は母親(ぎんさん)と父親、私と夫、息子と娘の五人で、平屋に暮らしとった。高潮が堤防を越えたって聞いて、屋根裏に上ったんだ。どうしてかね。あの日、普段は別の場所にあるはしごが梁に掛かっとったもんで苦労しんかった。それに屋根裏にも、懐中電灯や布団が置かれとったんだ。水面が高く見えるようにつくり休めたんだわ。

松尾副所長　やっぱがいて、空洞になっとり、偶然じゃない。はしごも布団も懐中電灯も、美根代さんのお姉さんが、きちんと災害に備えていたのでしょう。

千多代さん　きっと、あんた(美根代さん)の目那がちゃんとやってくれとったんだわ。用心深い人だった。

■復興と課題

美根代さん　被災後、もっ低い土地はだめだって、うちも一時、隣の緑区に「高台移転」したんだ。結局は近所の仲間が場所があるといいですね。東日本大震災以降、市や県が公営住宅や民間ビルを津波避難ビルに指定するようになっている。この地域も増やして欲しいですね。

千多代さん　河村たかしさん(名古屋市長)に再び、津波や高潮が来た時の行事なんかで会うこと多いんだわ。いっつも、名古屋の沿岸部は工業用の地下水のくみ上げいしとる。

美根代さん　正直言う、ぎんさんは嫌だで。防災の役立つなら、これからも昔の災害をどんどん語ろう。伊勢湾台風の経験を検証する文化のたまものだ。検証結果はリポートとして公表されている。日本もこうした文化を習うべきだろう。震災対応の家屋は全壊状態となった。求められている。

伊勢湾台風の浸水標識を見て回る蟹江美根代さん(奥)と松尾副所長＝名古屋・南消防署大同出張所前で

布団・懐中電灯… 屋根裏の備え 家族救う

「非常事態」発信 米で奏功

松尾一郎 副所長 環境防災総合政策研究機構

南海トラフ地震による津波への警戒に目を奪われがちだが、東海地方は海抜ゼロメートル地帯が広がり、台風による水害も懸念されている。昨年十月に北米を襲ったハリケーン「サンディ」は、高潮の恐ろしさをまざまざと見せつけた。現地を調査した松尾一郎副所長＝写真＝が高潮対策の重要性を語った。

近代都市が高潮や津波に襲われれば、大きな被害が出る。サンディの死者は北米で百三十二人、被害額は東日本大震災の半分の八兆円に上った。

サンディは風雨だけでなく異常な高潮で被害をもたらした。強風で海水が東海岸やニューヨーク市内に浸水、入れず、延焼した。特にマンハッタン島は観測史上最高の潮位が記録された。ニューヨーク市の地下鉄がマンハッタンを中心に八駅じ事態が起こりうることを結ぶ地下トンネルも冠水した。高潮による被災状況は「津波」と同じだった。

広域火災も発生した。道路も冠水したため、消防車両が現場にうな都市では、海水がは海抜ゼロメートル地帯の浸水防止対策や利用者の避難対策は急務だ。

記録された。ニューヨーク市の地下鉄では、南海トラフ地震の津波被害が多発した。今後も同じ事態が起こりうることを考えるべきだ。

中部地方では、南海百三十六平方キロにも及ぶ、九十万人が住む。サンディと同じように、海水は、隙間があれば低いところを目指してやってくる。

最優先すべき取り組みは海抜ゼロメートル地帯の浸水対策。例えば、地下鉄や地下街がある。地下商店街の浸水防止対策や利用者の避難対策は急務だ。

防潮堤は一九五九年の伊勢湾台風以降に整備されたが、すでに五十年が経過、地盤沈下や老朽化もあり地域の安全度は低下していた。これらの防潮堤は津波対策も兼ねている。点検や強化が急務といえるだろう。

米国の対策から学ぶべき点もある。ニュージャージー州の州政府は、「浸水」が通過後、この地域の家屋は全壊状態となった。

ニューヨーク市のブルームバーグ市長は、サンディ上陸の三日前から報道を通じて連日、市民に避難すべきか、「地下鉄の停止」など発信、市民が非常事態を認識することに役立つ。「危機感の共有」がうまくいった例だろう。これらは米国が過去に経験を検証する文化のたまものだ。検証結果はリポートとして公表されている。日本もこうした文化を習うべきだろう。震災対応の家屋は全壊状態となった。求められている。

次回は、7月1日に掲載します。

(c).中日新聞社　無断転載、複製、頒布は著作権法により禁止されています